

# 外形の特徴からみた戦前期の『外交時報』について

報告者：伊藤信哉（松山大学法学部准教授）

## 1. はじめに

- ◇戦前期『外交時報』＝日本の「外交論壇」の中心的存在
- ◇1898年2月に創刊され、1945年4月の休刊までに111巻956号を発行
  - 1. 有賀長雄の時代
    - ＝1898（明治31）.2～1911（明治44）.10：1巻1号～14巻167号
  - 2. 大庭景秋の時代
    - ＝1911（明治44）.11～1914（大正3）.4：14巻168号～19巻227号
  - 3. 上原好雄の時代
    - ＝1914（大正3）.5～1920（大正9）.12：19巻228号～32巻387号
  - 4. 半沢玉城の時代
    - ＝1921（大正10）.1～1943（昭和18）.12：33巻388号～108巻936号
  - 5. 小室誠の時代
    - ＝1943.（昭和18）12～1945（昭和20）.4：108巻937号～111巻956号
    - cf. 戦後は第1期：950号（1952.11）－952号（1953.1）
    - 第2期：953号（1958.8）－1233号（1986.3）
    - 第3期：1234号（1987.1）－1351号（1998.9）
- ◇1930年の『外交時報』／月2回刊・5,322頁→類似誌を凌駕、総合雑誌すら上廻る  
cf. 2000年の類似誌：『国際問題』12号1,072頁／『世界週報』49号3,968頁
- ◇他方で、同誌の編輯体制や内容分析は、長らく行われてこなかった
  - ・出版社（外交時報社）そのものの流転・衰微
  - ・刊行が長期、分量も膨大（論文や記事の総数は34,000件、執筆者1500名を超える）
- ◇報告者が2002年より取り組んできたのが同誌の総目録作成と、外形の特徴の解明
  - ・『外交時報総目次・執筆者索引―戦前編―』日本図書センター、2008年。
  - ・『近代日本の外交論壇と外交史学―戦前期の『外交時報』と外交史学』日本経済評論社、2011年。
- ◇今回の報告の趣旨：本研究会の主題である「近代日本における反欧米論」が展開された舞台である戦前期の『外交時報』の外形の特徴を述べ、今後の研究の参考とする

## 2. 時代ごとの特徴

### (1) 有賀長雄（創刊者：1898.2～1911.10：1巻1号～14巻167号）

#### ①経営者について

- ◇1860年生れ。82年に東大文学部を卒業（高田早苗・天野為之と同期）、84年に東京専門学校講師となる→国際法、国法学、外交史などを担当（日本における外交史学の祖）
- ◇国際法・外交史のみならず、国法学や行政学、社会学など多方面で歴大な業績を残す
- ◇1898年に東京専門学校内に「外交時報社」を置き、38歳から51歳まで、当初はほぼ独力で雑誌を編集・経営（協力者：埴原正直、煙山専太郎）
- ◇早稲田大学草創期における重要な貢献者の一人であるが、その後の経緯から、早稲田では無視されることが多い…その「全体像」を捉えた研究も存在しない（1921年逝去）

#### ②誌面の特徴

- ◇当時の外交時報は「学術誌」としての性格が強いが、当時の時代背景から、海外報道や解説にも力を入れている
- ◇ページ数：100頁前後／月刊
- ◇記事分類：「肖像略伝」「記事」「論説」「国際法」「条約改正」「万国赤十字」「外交家伝」「国際経済」「書評」「公文」「雑報」など
- ◇主な執筆者：有賀、煙山のほか、宮本平九郎、中村進午、佐藤宏、立作太郎、青柳篤恒、松宮春一郎、原田豊次郎、牧野英一など
- ◇誌面の特色：最初の4年間（1901年末まで）は、有賀の個人誌としての性格が強い  
その後は、有志（中村・戸水寛人・立など）による合議体制が採られる  
→何れにしても少数の執筆者による同人誌的性格が色濃く、しばしば誌面で活潑な論争が繰広げられる。

#### ③譲渡の経緯

- ◇有賀の健康問題および外交時報社の経営不振により、同社を手放した

### (2) 大庭景秋（柯公）（第2代：1911.11～1914.4：14巻168号～19巻227号）

#### ①経営者について

- ◇1872年生れ。早くに両親と死別し、学校に抛らずにロシア語などを習得
- ◇1906年～1911年に大阪毎日・東京日日にて活躍したジャーナリスト
- ◇外交時報社の経営から離れた後、東京朝日新聞を経て読売に移り、革命後のロシアに赴いたまま消息を絶つ

## ②誌面の特徴

- ◇『外交時報』を「学術誌」から「報道誌」に変えようとした形跡がみられる  
→論説の無署名化や海外通信員制度の創設など
- ◇ページ数：有賀時代より増加（120～130頁ほど）／半月刊に移行
- ◇記事分類：「口絵」「社説」「論壇」「時事」「人物評伝」「翻訳通信」「史壇」「海外訴状」「海外通信」「経済」「軍事」「書評」など
- ◇主な執筆者：有賀長雄、重徳来助、稲原勝治、煙山専太郎、松宮春一郎、大庭景秋、長瀬鳳輔、米田実など
- ◇誌面の特色：特定少数の執筆者が署名原稿の大半を寄稿する状況に関しては、有賀時代とさほど変わっていない  
大庭自身の原稿がさほど多くない＝個人誌からの脱却  
「海外通信員」からの報告が「海外通信」として誌面に現れる  
「無署名主義」への転換

## ③譲渡の経緯

- ◇上記の改革は失敗したとみられ、経営不振を脱することができないまま退陣。ただし稲原勝治に代表されるジャーナリストを執筆陣に呼込んだのは、重要な貢献

## ※この時期に登場した常連執筆者

### ◎稲原勝治（いなはら・かつじ）

- ◇1880年生れ。1907年スタンフォード、続いてハーバード大学を卒え1911年に帰国
- ◇大庭の紹介により1913年に大阪朝日新聞社に入社。のち同社の初代外報部長となるが、白虹事件で退社し、読売新聞を経て東京日日新聞に転じている
- ◇『外交時報』には1911年から1944年の間に230編を発表しており、当時を代表する外交評論家のひとりであるが、これまでほとんど研究されることがない

### ◎米田實（まいだ・みのる）

- ◇1878年生れ。オレゴン州立大学とアイオワ州立大学大学院を卒業し、1907年に帰国
- ◇1908年に東京朝日新聞に入社し、1911年には同社の初代外報部長となる。稲原とは異なり、学者としても活動しており、明治大学政治経済学部教授（外交史）も務めた
- ◇『外交時報』には1913年から1945年の間に合計202編を寄稿している
- ◇彼についての先行研究としては拙稿「国際問題評論家の先駆・米田實」などがあり、今後、さらに分析を深めていく予定

### (3) 上原好雄 (第3代：1914.5～1920.12：19巻228号～32巻387号)

#### ① 経営者について

- ◇ 1883年生れ。早大で学んだ後、野戦鉄道提理部や日本電報通信社の記者として働く
- ◇ 軍事関係の出版に興味を持っていた人物らしい(同社も出版事業に進出している)
- ◇ 1915年春から神川彦松、1918年ごろから半沢玉城に編輯を任せていたと推測される
- ◇ 外交時報を手放したあと「兵書出版社」を設立。のち衆議院議院にも当選(1期のみ)

#### ② 誌面の特徴

- ◇ この時期から、現役の外交官や政治家の寄稿が本格的に始まる：その後の飛躍の基礎
- ◇ ページ数：大庭時代と変わらず(大半の号は100～130ページの範囲に収まる)
- ◇ 記事分類：「口絵」「社説→時論」「論壇→論説」「時事→時報→支那時報・歐洲時報・両米時報」「記事」「海外論叢」「海外特信」「史壇」「世界小観」「人物評伝」「書評」「國際經濟」「國際軍事」「雜録」など  
→最終的に、すべての記事が「時論」「論説」「記事」「歐洲時報・両米時報・支那時報」「雜彙」の五つに集約される
- ◇ 主な執筆者：神川彦松・長瀬鳳輔・稲原勝治・立作太郎・有川治助・重徳来助・西山重和・米田實・蜷川新・田中萃一郎など
- ◇ 誌面の特色：記事分類の整理と統合が進む(上述)  
「無署名主義」の抛棄…「記事」欄の創設など  
「少数の執筆者に、署名記事の大半を依存する状態」からの脱却  
→「特定少数」から「不特定多数」へと拡散  
寄稿者の幅の拡り  
→研究者と新聞人が適度に混在した状態となり、そこに一線級の政治家や外交官が、新たな投稿者として参入

#### ③ 譲渡の経緯

- ◇ 1920年4月に半沢が編輯人となり、同年末ごろに経営譲渡か(経緯は不詳)

#### (4) 半沢玉城 (第4代：1921.1～1943.12：33巻388号～108巻936号)

##### ① 経営者について

- ◇ 1887年生れ。日大を卒業したあと東京日日新聞記者を経て、やまと新聞編輯局長  
→山県有朋・寺内正毅らに太いパイプを持つ
- ◇ 1918年に神川彦松が留学したため、後任として外交時報社に招かれたと推定される
- ◇ 1920年4月に半沢が編輯人となり、実権を掌握したと想像される
- ◇ 1930年代半ばに、本社を丸ノ内(帝国劇場の斜向い)に移転するなど経営も順調

##### ② 誌面の特徴

- ◇ 『外交時報』編輯人に就任したころから同誌に有力政治家が寄稿し始める。また社長就任後、軍人の寄稿も始まる  
→ 『外交時報』を学術・評論・報道の三つの側面を兼備した雑誌として大きく発展
- ◇ ページ数：平均127ページ(1921年)から230ページ台(1930年代)と増加  
しかし1940年代に入ると、用紙統制の影響で減少に転じる
- ◇ 記事分類：上原時代の分類を継承し、若干の追加と修整を行ったのみ  
→ 「軍事時報」「特別談叢」「外交問答」「外交半月日誌」の創設など
- ◇ 主な執筆者：(前期) 半沢玉城・米田實・稲原勝治・高木信威・伊藤亀雄・坂本俊篤・泉哲・松原一雄・末広重雄など  
(後期) 半沢玉城・米田實・西沢英一・井村薫雄・小室誠・大山卯次郎・田村幸策・直海善三・松田道一・稲原勝治など
- ◇ 誌面の特色：(前期) 「執筆者の不特定多数化」と「寄稿者の幅の広がり」という、上原時代に生じた傾向が、さらに強まった…軍人なども登場  
(後期) 学術・報道・評論の三つの側面を兼備した雑誌として、1920年代には完成の域に達していたが、30年代に入ってから、当初はこの状況に大きな変化は見られず  
→ 40年代になると、誌面の制約・言論統制の影響で急速に凋落

##### ③ 譲渡の経緯

- ◇ 舌禍事件で当局から自宅謹慎・外交時報社との絶縁を迫られ、小室に譲渡したと想像される→しかし、譲渡後も影響力を行使し続けた

※この時期に活躍した常連執筆者

◎末広重雄（すえひろ・しげお）

- ◇ 1874年、末広重恭（鉄腸）の長男として生れる
- ◇ 東京帝大法科を1899年に卒業し、1902年に京都帝大法科大学の助教授となる
- ◇ 同大学の政治学政治史講座の初代担任者として、教授に昇格した1906年から政治史の講義を担当し、1922年に新設された外交史講座も兼担している（1927年からは国際法第1講座も担当）
- ◇ 『外交時報』には1905年から1940年にかけて合計96編を寄稿した
- ◇ 彼の言説に関しては藤岡健太郎氏の研究があり、さらに松田義男氏が著作目録を作成されている（<http://www1.cts.ne.jp/~ymatsuda/>）が、さらなる分析が期待される

◎西沢英一（にしざわ・えいいち）

- ◇ 1892年生れ。慶応義塾を卒業したあと、時事新報に入り政治部記者となる。1923年外報部長に抜擢され、1930年代までその地位にあった。
- ◇ 『外交時報』には1930年から寄稿をはじめ、半沢時代の後期から小室時代を代表する常連寄稿者となる（通算76編）
- ◇ 次の井村薫雄と並び、戦時期における外交評論家の一類型として興味深いのが、これまでその言説が研究されたことはないと思われる。

◎井村薫雄（いむら・しげお）

- ◇ 1891年生れ。早稲田大学の政経を卒えたあと興亜院の嘱託などを務めた人物。
- ◇ 中国の金融経済を専門とし、『支那社会経済の研究』『列国の対支投資と華僑送金』などの著作がある
- ◇ 『外交時報』に寄せたのも中国関係の論稿が多く1931年から1945年までに64編
- ◇ 西沢などと同じく、先行研究は皆無と推測される

(5) 小室誠 (第5代：1943.12～1945.4：108巻937号～111巻956号)

① 経営者について

- ◇ 1896年生れ。早大を卒業したあと、報知新聞論説委員を経て1941年ごろ入社  
→従来と異り、半沢も社内にとどまった模様(戦後、社長に復帰している)
- ◇ 戦時中の用紙制限などで、どんどん誌面が縮小された時期にあたる

② 誌面の特徴

- ◇ ページ数：1940年の普通号の平均は198頁と、前年の234ページから大きく減少  
倍大号が廃止された1943年は、毎号の平均で103ページとなり、翌年は  
61ページまで減り、最後の1945年になると、平均42ページとなる
- ◇ 刊行頻度：1944年4月号から半月刊→月刊に変更
- ◇ 記事分類：誌面の縮小に伴ひ、大幅に整理されてゆく

③ 休刊の経緯

- ◇ 1945年4月号を最後に、予告なく休刊(5月下旬の空襲による罹災か)。

## おわりに

◇ 研究対象としての『外交時報』

- ・ 従来は主要新聞や総合雑誌の分析が中心だったが、今後は『外交時報』のような専門誌に掲載された論説や報道にも、広く目を向けてゆく必要があるのではないか

◇ 今後の課題

- ・ これまで見逃されてきた重要文献の発見と再評価
- ・ 当時の『外交時報』の内面的特質の体系的な整理と分析(無署名記事を含む)
- ・ 有賀長雄や半沢玉城、稲原勝治など、これまで注目されることの少かった人物に関する研究の進展

## 伊藤信哉『近代日本の外交論壇と外交史学』

一戦前期の『外交時報』と外交史教育』

発行年月日： 2011年3月1日  
 発行所： 日本経済評論社  
 ISBN： 9784818821484  
 ページ数： 324ページ  
 価格： 4,200円

CAMBRIDGE/ UL FD.402.85  
 亜大 319.1/Ki 42 11199525  
 愛大名 図 319.1:89 1121004154  
 一橋 図 3190:2450 111014333H  
 学習院 法経 319.1A/89k//K 0100999483  
 関西院大 上ヶ原 327.5:2289 0073424665  
 関東院大 111101235  
 京大 図 A||74||キ 2 200019805721  
 京大人環総人 図 319.1||K||49 200021221609  
 京大法 328.01||48 200020634891  
 共立女大 図 319||457 1111173403  
 近大 中図 00506527  
 熊大 319/89 11104138735  
 広大中 319:l-89 3500438791  
 皇学大 319.1/l.89 242250  
 国学院 1110010798  
 国士館 本館 319.1||89 892222  
 阪市大 センタ 319.1//89//5415 11702454155  
 阪大総 10502362378  
 札院大 2002977879  
 純心図 319.1 225345  
 昭女大 図 021102984  
 松山大図 319||lt 212624403  
 上智大 書庫 319.1:895 005849437  
 神戸市外大 図 N319.1-122 350455189  
 神奈大 BB201102148  
 成城大 Y201847  
 成蹊大 図 319.1/89 2011106967  
 清和大 図 10050430  
 聖学院大 図 319||89 102571103  
 青学青山 001103126  
 専大神 図 10947348  
 創価大 319.1/l 91/ 11000729  
 大東大 319/89 111369436X  
 拓大 319.1|| ||3327 00731026  
 筑大 319.1-89 10011006842  
 中大 図 319/89 00025596891  
 中大 政策 319/89 00025484486  
 中部大 図  
 東海大湘南 11 319.1|| 02666395  
 東外大 A/319/674530 0000674530  
 東経大 /319.1/l 89k 0706574  
 東大史料 図書 1051.9:267 6811194361  
 東大社研 図書 B:6101:143 6510868679  
 東洋大 319:IS89 4110987064  
 桃山大 図 319||89 00730015  
 同大 319.1||9578 119100899  
 奈良図情 一般 319.1-イトウ 111196324  
 奈大 図 319/89 388958  
 南山大名 図 319.1K/1222 1104606  
 日女大 図書館 2384400  
 日大研 A||74||lt 00480256  
 武蔵野大 11290203  
 福岡大 319/89-4/1 2000000186769  
 法大 市図 319||479 00458052  
 北海学園大 図 319/ITO 0759788  
 北商大 図 319/ITO//305844 305844  
 北大 図 327.52/ITO 1280371367  
 名市大山の畑 319.1||lt 42061912  
 明学大 図 319.1:89 0007337603  
 明大 本 319.1||649||H 1201101043  
 明大 和 319.1||322||H 1201101348  
 立命館 12002221376  
 龍大深 図 11105005731

## 伊藤信哉『外交時報総目次・執筆者索引』

一戦前編』

発行年月日： 2008年4月25日  
 発行所： 日本図書センター  
 ISBN： 9784284201063  
 ページ数： 624ページ  
 価格： 37,800円

愛大豊 図； 319.031:G14:1 0811006096  
 愛大名 図； 319.031:G14 0821018482  
 一橋 図； 3190:2474: 111016551L  
 関西院大 上ヶ原； 327:2128:1 0072885395  
 関大 図； 210633492  
 京産大； 319.05||ITO  
 京女大 図； 319.031/89 1080014500  
 京大法； 328.05||11 200007683649  
 九大 記産経； 319.05/l 89/2008 090112008002355  
 敬大佐倉； R319||G14 K27593  
 皇学大； 319.05/l.89 233069  
 国士館 本館； 319.031||G 14 845074  
 阪大外； 319/848/ 戦前 12000085535  
 札院大； 2002511896  
 札大； R319.1||89 0806738  
 首都大 社会； 319/89g 10001418195  
 松山大図； 319.031||Ga 212327393  
 成蹊大 図； 319.05/89 2010105029  
 専大 図； 10875068  
 大谷大； 00633976  
 大東大松； B/319.031/89/ 1212427203  
 東大社研 図書； ZB:3 6510868661  
 東大文 日本史； 03:107 4818067904  
 東北福大 図； 0000133101  
 東洋英女； 319.05||G14||v.1 212934  
 東洋大； R319.05:IS89 0110827326  
 桃山大 図； 319.05||89|| 00693298  
 同大； 319||9574 089109108  
 日文研； A||99-Z||lt 00446051  
 福岡大； 319.05/89/1-1 2000000097184  
 放送大 図； 319.1/G14 11118199678  
 法大 市図； 319||450||R 00441447  
 防大； 319.031-G14 08700512  
 名学大瀬 図； 319/760 3000305923  
 名大文 文日文化； 319.05|||| 書誌 11626924  
 明学大 図； 319.1:89 0007285265  
 立大； 52140701  
 立命館； 11001232136  
 龍大瀬 図； 30805032468  
 佛教大 図； 200562770